蘇東坡とその生涯（１０３６～１１０１）　―栄達と流謫の歴史―

（蘇東坡 100 選（石川忠久）に従い生涯を五期に分ける）

第一期　　蘇軾、字は子瞻（しせん）の出自と幼年、少年時代（～24 歳）

① 出 自：先祖は唐初の蘇味道、則天武后の朝の宰相、後に罪に坐し、眉州の刺史に謫せられ、この地で没した。

② 生 地：眉州 紗穀行（さこくこう）（絹の同業者の意）に生まれる。

「吾が家は蜀江の辺。江水は緑なること藍（らん）の如し」

仁宗の景祐 4 年（1036）12 月 19 日生。長男 景先は蘇軾三歳の時に亡くなったので、三つ歳下、蘇轍 字子由（しゅう）との二人兄弟で育ち、二人は終生変わらぬ兄弟愛に生きた。（蘇洵は「名二子説」を残している）

父 蘇洵　28 歳の時、軾 生まれる。伯父 渙（かん）、進士及第、任官。

父は 25 歳の頃から発奮して本格的な学問を始む。蘇軾、蘇轍と共に三蘇と並称される。（老蘇・大蘇・小蘇）

唐宋八大家…　韓愈・柳宗元・欧陽脩・蘇洵・蘇軾・蘇轍・曾鞏・王安石

③ 生 家：**「我昔田間に在り。ただ羊と牛を知りしのみ。川は平らかにして、牛の背は穏やかに、百斛（ひゃくごく）の舟に駕するが如くなりき」**

蘇家が織物の売買を営んでいたと断定できる材料はない。

④ 母 程氏：27 歳の時、子瞻を生む。薫育は母に委ねられる。教養ある婦人で、二人の子に書物を教える。

仏教を篤く信仰。殺生をきらう事、召使いまでが感化され、庭の小鳥を可愛がり、雛をうつむいてのぞく事ができた。

この母の教えが、後年知事となっては、心から吏民の幸福をはかり、転任時、彼の馬の鞍をはずして引き留められる。（詠詩）又、遠い謫貶の地（黄州・海南島）に在って、艱難と戦い、生き抜く力を与え、人に対し暖かい光を降り注いだ根源ともなっている。

⑤ 少年時代；小学校、眉山県の天慶館の 張易簡（道教の道士）に学ぶ。

後　蘇軾は海南島にいる時に易簡の夢をみたという。

（道教の影響は赤壁の賦他に）

8 歳の時蘇軾は、「慶暦聖徳詩」と題した 11 人の詩を立派に読むので、都から来た先生は、韓琦、范仲淹、富弼、欧陽脩、等は人傑だと教えた。

１０５４：王弗を娶る。

１０５６：父の洵に連れられて弟の轍と共に開封（河南省）に赴き、予備試験に轍と共に合格。

１０５７：欧陽修が試験委員長を務めた進士の試験に弟の轍と共に合格。
母急逝。

第 二 期　　本格的官僚生活始まる（24 歳～34 歳）

１０５９：母の服喪終わる

１０６１：官吏任用試験に轍と共に及第、軾は第三等、轍は第四等
鳳翔府（陝西省）の高等事務官として官吏の道に歩みだす。

第 三 期　　官僚として激動の時代（34 歳～50 歳）

１０６９：王安石の新法（均輸法、青苗法）が施行され、新法党と旧法党の抗争、蘇軾は新法に批判的で、王安石と意見が衝突、以後地方官任務が続く。
１０７１：杭州（浙江省）、１０７４：密州（山東省）、
１０７７：徐州（江蘇省）

１０７９：湖州（浙江省）の軍州事の時、彼の詩に朝廷の政治を誹謗したものがあるとして捕らえられ、御史台の獄に投ぜられ、年末には恩赦により黄州（湖北省）に流罪となる。
１０８０～１０８３の黄州での流謫生活が蘇軾の人生と文学の転換期であった。（自ら耕作に従事、東坡居士と号す）

第 四 期　　主に朝廷に有り順調に昇進（50 歳～59 歳）

１０８５：神宗が崩じ、旧法党が政権を取ると名誉回復、登州（山東省）の軍州事になる。

１０８６：翰林学士、礼部尚書などの要職を歴任。
１０８９：杭州の軍州事（西湖に蘇堤）１０９１：潁州（安徽省）軍州事、１０９２：揚州（江蘇省）軍州事、８月兵部尚書として召還。

第 五 期　　晩年の激動の時代（59 歳～66 歳）

１０９４：新法復活、恵州（広東省）に流罪。

１０９７：海南島の儋州へ追いやられる（東坡海外の文章）。

１１００：哲宗崩じ、名誉回復。

１１０１：都へ向かう途中、病にかかって退職を乞い、７月，常州昆陵にて６６歳で永眠、諡は忠公（蘇文忠公）。
弟の蘇轍は兄の死後十余年生き、74 歳の寿を保った。

欧陽修・梅堯臣らの先達に愛され、政敵ながら王安石にも認められ、門下には黄庭堅・秦観らの俊英が慕い集まった。宋代に高くそびえる高峰のごとき存在、それが蘇東坡なのである。

以上「蘇軾」近藤光男、及び「蘇軾 100 選」石川忠久より抄出